

令和7年度 第3回まちづくりふれあい懇談会記録書

1 日 時 令和7年8月21日(木)午後6時30分～7時53分(1時間23分)

2 場 所 南コミュニティセンター 大集会室

3 出席者 一般出席者 9人

網走市出席者 10人(市長、教育長、
企画総務部長、建設港湾部長、
市民環境部次長、廃棄物処理広域化推進室参事、
都市整備課長、都市管理課長、
企画調整課長、企画調整課参事)

町連等出席者 3人(会長、地区連役員、社会福祉協議会職員)

計 22人

4 議事進行 地区連役員

5 進行記録

18:30 開会

18:31 市長あいさつ

18:34 町内会連合会会長あいさつ

18:37 テーマ(1)ごみの広域処理について

18:56 テーマ(2)街路樹再編計画について

19:07 テーマ(3)公園等を利用した雪置き場の活用について

19:35 その他

19:51 市長あいさつ

19:53 閉会

6 質疑など

【テーマ(1)ごみの広域処理について】

参加者	エネルギーの循環ですけども、ごみを燃やした時の熱の利用、この熱をどのように利用するんですか？
廃棄物処理広域化 推進室参事	場内の給湯であったり、施設周りのロードヒーティング、暖房といったものに熱を利用することになります。
参加者	どの範囲で利用するんですか？美幌だけですか？
廃棄物処理広域化 推進室参事	施設の中の給湯や暖房、施設周りのロードヒーティングだけになります。
参加者	そのように書いてもらったほうがいいですね。もっと広範囲に利用するのかと思ってました。
参加者	ゴミ袋の料金の変更等の予定は、ありますでしょうか？
市民環境部次長	分別の仕方が変わる予定。詳細はこれからですが、袋も変わりますので、料金も変わる可能性がある。これから試算をしまして、改めてお示しさせていただきたいと思っております。
参加者	施設の建築について、何社か相見積もりを取られてるってことなんですか？
廃棄物処理広域化 推進室参事	現地調査や環境アセスをやった上で、仕様書をきっちと固めまして、焼却施設のメーカーに、発注することになります。参考見積もり程度にはもらってるものはありますけども、発注自体はまだ済んでない状況になります。
参加者	具体的に何社に相見積もりが進んでるってことなんですか？
廃棄物処理広域化 推進室参事	施設を作りますというときに、何社かのメーカーが手を上げてることになりますので、今の段階では決まってはおりません。

【テーマ(2)街路樹再編計画について】

参加者	この再編計画を拝見する中で、歩道の拡幅のために植樹帯と言われるところは、例えば、植樹柵とかそういったところは含まれるものと考えてよろしいでしょうか。
建設港湾部長	<p>歩道と車道との間に、植えていく空間があるかと思うんですけど、一連に帯状になっているのが植樹帯と言います。</p> <p>大体1平米ぐらいの木が1本ずつ植えるようなスペースがあるかと思うんですけど、それが植樹柵という呼ばれてます。</p> <p>今回、歩道拡幅を考えているのは、植樹帯を歩道の部分に置き換えることで、歩道の歩きやすい空間を整備していきたいと考えて、植樹柵については残していきたい考えです。</p> <p>街路樹を切った後に、町内会の中で花植えをしていただいたり、有効的に活用されているところもありますので、今後も、そういった花を植えていただければと考えているところです。</p>
参加者	実際にその木を撤去するのはいいんですけども、そのまま根株を残されてしまうと、私たちのところで花いっぱい運動でたくさん花を植えてますけれども、当然植えるスペースも限られますし、道路や歩道につきましては、成長した木が根を張り、かなり歩道が浮きさせデコボコになってしまう。そういったところも、補修も踏まえての再編計画かどうなのを確認したかった。
建設港湾部長	<p>根が歩道を隆起して歩きづらくなるような、非常に大きく成長した街路樹がある場所は弊害が出てきているという認識です。撤去に合わせて、そういった歩道の根が盛り上がっているところについて、改修していきたい。</p> <p>木を切った後の根を植え替えであるとか、花をせっかく植えたくても根があって植えれないっていう問い合わせもあるので、そこについては根をできるだけ取る方向で考えています。</p>

【テーマ(3)公園等を利用した雪置き場の活用について】

参加者	民有地の実績ってあるんですか？
建設港湾部長	<p>民有地の実績は無い。問い合わせはいくつかいただいてる。1つでも多く、雪置き場に活用できる民有地も広げていきたいと思っております。</p> <p>もし、ここの土地どうなんだろうっていうことがありましたら、お話しただければ市で調べさせていただきます。</p>

【その他】

参加者

ごみの広域処理について、説明がすごく早かったので候補地の評価委員会の評価結果についてもう少し説明を聞きたい。

あと、美幌町の土地はハザード対策として土地の造成が必要と書いてあるんですが、これは川が近いということで、洪水対策をするのでしょうか。

廃棄物処理広域化
推進室参事

評価委員会の評価結果についてご説明をさせていただきます。

評価結果の集計欄で、特に三角、適正度が低いという項目に着目しまして、三角の数がですね、網走市が27、美幌町が5、清里町が53、大空町が34となっております、美幌町の土地が三角の数が圧倒的に少ないということなり、美幌町が1位という結果となりました。それから、網走市と大空町東藻琴につきましては、周辺の利用状況と考慮した上ですね、同率で2位だということに委員会の中で決定したところです。

清里町につきましては、三角の数が53ということで、適正度が低いという評価が多く上がったということで4位となりました。

美幌町の洪水ハザード等の件についてですけれども、近くに川が流れてますが、大雨が降ったときの推定浸水深というのが大体1mから3mぐらいに想定をされております。大雨時の浸水に対しての対策が必要だということで、洪水ハザードへの対応ということで評価委員会から課題事項が示された。

参加者

ごみ処理が、メタンコンバインド方式から焼却施設ストーカ式に変わっている。何か問題があって変更になったんでしょうか？

廃棄物処理広域化
推進室参事

以前はメタンコンバインド方式で、生ごみ等を発酵させてメタンガスを作って、それで発電するという施設を考えておりました。普通の焼却方式ですと、国の交付金の交付率が1/3で、メタンコンバインドですと1/2でした。

施設整備費がほぼ変わらず、メタン発酵したことで作った電気を場内で使えるということで、メリットとして考えてたのですが、施設の供用開始の時期が大体2年ぐらいずれることになり、処理能力1tあたりに対しての、交付金の上限額というのが設定されることになりました、メタンコンバインドの交付率1/2の優位性がなくなったというところ。また、年間の維持管理費で焼却施設が約6億円、メタンコンバインド施設が7.5億円。経済的な優位性が無くなった。

改めて再検討した結果、メタンコンバインド施設ではなく焼却施設に決めた。

参加者

少し古い話なんですけど、中学校のいじめの問題がありまして、その後の専門委員会が設置された。その結果というのは、市民にどのように伝えるのでしょうか。

教育長

また、今もいじめが非常に多いと言われてますけども、その辺の対策、今後の対策も含めて、どのように対処されるのか、お聞かせいただきたい。

市民の皆さんに大変ご心配をおかけしたと思っております。
いじめの調査報告書につきましては、再発防止対策というのも含わせて、市のホームページに載せさせていただいております。
一番大切なのが再発防止。市として、いじめ防止基本方針があるのですが、それを全面見直しました。その見直したものを学校に提示をしたんですけども、各学校にもいじめ防止基本方針っていうのがありますので、それを学校でも見直してもらうということがまず第1段階でありました。
見直ただけでは駄目なので、各学校15校に3点セットでしっかりと浸透させてくれということを言っております。
3点セットというのは、1つ目は教員、学校内ですね、どのような防止対策が変更になったのかしっかりと共有しましょう。校長が見といてねっというのではなく、しっかりと会議等を出して議論して共有しましょう。これが1つ目です。
2つ目は子供たち、子供たちにもしっかりと伝えましょう。
例えばいじめの定義であるだとか、これは犯罪行為なんだよっていうことだとか、SNSとかで呟いたりしても、これもいじめなんだよだとか、そういうようなことを子供たちに、全ての学級で一斉にやりましょう。今年度中に必ず道徳の授業で、いじめをとりあげる方針にもしました。
3つ目は、保護者ですとか、チームです。
これについても、しっかり学校としてどういうところを見直して、いじめが起きた場合にはどういう対処をしますよということをしっかり伝えていきましょうと話をしております。例えば、学校のホームページに、学校のいじめ防止基本方針が載っていますけども、それ以外にも毎月1回、学校だよりが多分出ていると思う。そこでしっかり伝えるだとか、例えば行事だとか、参観日だとかあった場合には、直接保護者に伝えるだとか、しっかりこの市が示した、改善・改定したものを学校でも見直し、その見直した中身をしっかりと、教員・児童生徒・保護者に伝えて再発防止策を共有していきましょうということを取り組んでいるところであります。
それでもなかなか、いじめがなくなるという現状があります。学校では、6月と11月にアンケートというのを取っております。それから、教育相談というのを定期的にやったりだとか、随時相談もやっています。
これで十分かと言えば、再発防止がこれでしっかりできるということではないんですけども、まずは、その起きた事例を教訓として、温度差のないように全ての学校でそのように取り組むように指導してるところです。

参加者

言葉を介したコミュニケーションを、どう取るかっていうことは非常に大事だということを認識しています。お茶水大の教授だった藤原正

彦さんの言葉がすごい好きで、よく読んでるんですけども、国語は全て人生の基本だと。今、その国語力が非常に低下している。その結果、意思の疎通、言葉で説明できない。結果がですね、いざこざ、いじめ、そのたび不安につながっている。

ですから、その国語の力を親子を通して伝えていくことが大事かっていうことを、藤井先生は説いているんですけども、私もそう思う。基本はやっぱり言葉なんですよ。言葉で気持ちを通じる。

市に、子どもの憲章書ありますよね。黄色い表紙の。読んでみると、その辺は全然触れていない。いじめ対策は、大人や親、親御さんだけではどうしても手が回らないので、やはり大人が子どもの教育に責任を持つあるいは関心を持つっていう、そういう側面も含めてですね、その言葉にもっとこだわってほしいなど。そんなことを申し上げたいと思います。いかがでしょうか。

教育長

大変貴重なご意見ありがとうございます。全くその通りだなと思います。

SNS等がすごく発達してですね、例えばLINEで出したときに同じ言葉でも、受け取り方違いますよね。

え？っていう一言でも、ええ？っていうのと、え？っていうのは違うと思うんですよ。

だからそういう、やっぱり言葉がなかなか伝わりづらいっていうことはあると思うので、もちろん国語教育の中でやってることなんですけども、これからの21世紀の時代を生きていくために必要なのは、そういう今までの学力以外の非認知能力と言われているような、例えばコミュニケーション能力だとか、多様性を認める気持ちだとか、言われたことをやるんじゃなくて主体的に自らが動くだとか、そういう能力も必要だと言われているので、教科で身につけさせたい資質能力、プラス、それ以外に学校、子どもの実態をしっかりと学校で捉えたときに、うちの学校ではこういうことが足りないよね、例えば今おっしゃった、言語能力が少ないよねってなったら、そこを重点にするだとかっていうこともしていかなきゃいけないと考えているので、授業プラス、学校の教育活動全体の中で、そういう言葉の敏感な子どもたちを育てていくということが必要だと考えております。

いただいた意見、検討させていただきたいと思います。

市長

英語では、英語で言うと10個ぐらいの言葉がありながら、日本は一つという言葉がある。やばいという言葉がある。英語で言うと、デンジャラスっていうのもやばいし、エクセレント、素晴らしいっていうのもやばいっていう表現をする。

このケーキやばいよね、美味しいっていう意味にでも、英語で言うと、デリシャス・リスキー・デンジャラスという意味と、エクセレントっていう意味、全然、英語で言うと、全部違う意味が日本語ではやばいという言葉で表現してしまっている。実は、そのコミュニケーション能力っていうのは、やばいっていう意味がどういう意味なのかっていうのは全然わかんないっていうのは多分あるんだと私も思います。

ですから、その言葉のその語彙っていうものが、どこまでしっかりと言葉として認知させていくのかっていうのは多分ある。

先ほど教育長が言ったようなことと私は一緒のことだと思いますが、具体的に言えば、やばいっていう言葉は、実にやばいと思いますね。そういう言葉じゃない言葉をどう使うかっていうことで、表現力とか思考能力とかっていうのが変わってくるんだと思います。思考っていうのは言葉の単位で思考しますから。やばいっていう感覚だけで思考すると、それやばくなると思いますので、どうでしょうか。

教育長

その通りでございます。やはり文字だけで見ると、その時の感情で捉えるのが違いますよね。同じ言葉でも、違うように捉えてしまうので、やはり伝えることですよね。一番大事なことは、文章じゃなくて言葉で伝えるっていうことだと思う。だから、そういうことを学校教育の中でも、伝えていかなきゃならないのかなと思います。

参加者

市長がおっしゃるように、語彙力がですね、その辺はやっぱ意識して子供たちにどう伝えていくか、あるいは言葉をどう使わしていくかっていうことだと思います。

図書館あたりでは、読書っていうのを色々やってますけども、範囲を広めて、大人のも含めてですね、本を読んでもらうということですね、学校を通してですけども、行政も一貫として、市長がおっしゃるように進めてくれるといいなと思いますが、いかがでしょうか。

市長

お話を聞いて感じることは、自由という言葉があるんですが、これは福澤諭吉が外国語を翻訳して自由という言葉を使ったんですけども、英語で自由っていうと2つ意味があって、フリーダムというリバティーという言葉があるんですが、フリーダムっていうのはまさに自由。フリーっていうのはどういうことかという、無料とかがフリーですね。

リバティーっていうのは、ただじゃない。

つまり、フリーっていうのは責任のない自由。

リバティーっていうのは責任のある自由。

つまり、義務と責任がしっかりある自由と、責任のない自由を日本人は自由という言葉で権利も義務も責任も、同じ自由という言葉で使ってるから、何が自由という言葉が氾濫してしまってる。

しかし、英語の場合ではフリーダムという言葉とリバティーっていう意味は、2つは自由っていう意味であっても違うということを言葉で思考しているので、しっかりとそこは分けられてるんだけど、日本はそこは曖昧なんだろうと思う。

そういった1つ1つの意味っていうのを教えてあげないと、俺は自由なんだって言った時に、それはただなんですか、無責任なんですかっていう自由と、責任を伴った自由っていうことは2つあるんだ、意味は2つあるんだっていうことを英語から発するような外来語もしっかり教えないと、多分分かんないんだろうなと思います。

そういった言葉の語彙の深さっていうのは、やっぱり必要だなというふうには思います。

参加者

それは教育現場でどういうふうにするかっていうのは、私の範囲ではないって言ったら怒られますけど、そこまでもやっぱり私は、こういった会話の中でしっかり伝えていきたいことだなというふうに思っております。

市長

たまに、多様性っていう言葉使いますけど、いいように使いますけども、あれ碎いて言えばバラバラですね。
バラバラがいいかどうかということを、やっぱりきちんと判断しなければいけないと思う。
そんなことも含めて、市長おっしゃるように言葉、大事だなと改めて思いました。

参加者

ありがとうございます。

人口が非常に減って2万5000人になる、さきほど部長さんおっしゃってましたよね。
そこで提案なんですけども、長野県南箕輪村っていうのがあります。小さな村です。飯田線の木ノ下という駅で降りると、村なんですけど、今あそこはものすごい注目されています。
まちづくりの1つの例として、あの村の見学のツアーを市民から募ったらいかがでしょうか？
そんなことをちょっと申し上げまして、南箕輪調べたらすぐにわかると思うんですけども、とにかく今すごく注目を浴びてます。
これ提案なので、実行するかどうかちょっと別にして、人口が減っていく中のまちづくりっていうことです。

市長

厚生病院で赤ちゃんが生まれたのが150人で、網走市内の子供が140人。亡くなる方が450人なんです。人口が減るということですよ
ね。
亡くなるっていうことがやっぱり減る大きな原因というのと、赤ちゃんが生まれないということはありますけど、なんで赤ちゃん生まれないのか、色々調べていますが、何か子育て支援をしたら赤ちゃんが増えるっていうこともないんですよ。何とか費用を無償化したから赤ちゃんが増えるっていうこともなくて、子育て支援と少子化対策ってのは別問題だなんて考えていかないと、何か間違ってしまう。
踏み込む話かもしれませんが、大きな原因は結婚しないということ。結婚されると、それなりに赤ちゃんって生まれる。
フランスは、結婚しなくても伸びてるじゃないかっていうのはよくお話しがあったんですが、フランスの場合は婚外子って言われてるような方が増えていて、日本は結婚しなくて婚外子が増えてるって実態はないんですよ。
やはり結婚されて、出会いがあって、初めて家庭を持つと赤ちゃんが、1人なり2人なり、多い時は3人生まれるっていうのがあるので、どういうふうにその出会いを、昔はお見合い写真持って歩いた隣のおばさんがいたんですけど、今見ないですよ。結婚の大きな理由を聞くと、出会い系サイトで知り合って結婚するってのが、実は増え

ていて、何を持ってその出会いとするのか、そこはやっぱり大きな課題だとは思いますが。

人口は減ってるんですけど、唯一増えてるのが外国人の数です。今、網走市で550人の外国人の数がいます。3万人のうちの500人ですから、約1.5%ぐらい。雄武町の場合は、7%ぐらいですね。

人口は減っているけど、外国人は増えてる。国としてどうしていくのかっていうのは、地域も含めてですね、真剣に考えていかないと、学校教育も地域もそういう現状をどう踏まえていくのか。

今のところはそんな問題はありませんけど、今、外国人の子供さんが学校に入って、つきっきりで学習指導をかけて、日本語も喋れないので、手取り足取り教えている。

これはなぜそういうことをするかというと、義務教育だからです。7歳から15歳までは絶対に学校に入って勉強しなければいけないので、その子が学びができるように、これは私たち全員が税金でこれはさせていただいているということです。

そこはコストと見るのか、それとも多様な社会を私たちが作っていくのか、といったところのやっぱり議論が必要だなとは思っています。

参加者

先ほど申し上げた南箕輪村ですけども、私何回も行ってるんですけども、人口6000人台が今1万8000人になってます。まちづくりとして、市民も募って行って見て自治体をご覧になられたらいいと思います。

参加者

私、去年病気になって車の免許を返納しました。

それで、どこバスを利用してリハビリに整骨院に通ってるものですかから、可能であれば、整骨院前にバス停してほしいという要望をしました。結果、私が希望してところがバス停になりました。本当にありがとうございます。

私は、回数券を買って乗っています。回数券を市内の郵便局で買ってるんですが、一部の簡易郵便局などでは売っていないらしいです。

市内には、二つ岩・潮見・つくしの簡易郵便局はあるのですが、定期券や回数券は売っていないそうです。いろんな制限やら郵便局との取り組みやら、バス会社との色々あるのは分かるんで、それは仕方ないかもしれませんが、何とかそういうのを改善する方法がもしあるんであれば、やってもらったら助かる年寄りがいます。実際にどこバス乗ってるのは私を含めて高齢者ですから、どこバスは本当に必要になってます。若い人たちは、車に乗るので。

定期券は面倒かもしれませんが、せめて回数券をそういうところで売る方法がないか、検討してください。

市長

実はどこバスで1番売れてるチケットは、郵便局なんです。

私も売ってる、売ってなかったっていうのは、今日初めて知りました。特定局と簡易局の違いがあるのかどうかは、あまりよく分かりませんが、利便性を確保するという観点から聞いてみたいと思います。

できるのであれば、そういうサービスができればいいんだと思って
おりますので、伝えておきたいと思います。